「新学習指導要領」の趣旨を活かした、令和型単元計画と英語科学習指導案

日　時：令和８年１０月７日㈬　５校時
学校名：神戸市立太山寺中学校
対　象：３年６組３５名
会　場：３年６組教室
指導者：瀧口　麻帆(OTE)
Fellores Juanito Facto(ALT)

Ⅰ．単元について

単元（題材）名	Lesson5 Translating Culture (NEW CROWN English Series 3) （SANSEIDO）		
学習指導要領に関連する領域別目標	1　目標（3）話すこと（やりとり） ア　関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。 2　目標（4）話すこと（発表） ア　関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。		
単元（題材）の目標	(1)既習の表現を用いて、事実や考え、気持ちなどを伝えあうことができる （知識・技能） (2)海外の人に読んでもらうために、４コマ漫画について、日本の文化や習慣が伝わるような説明をつけ加えて、翻訳することができる。 (思考力・判断力・表現力等) ＊当初は下線部のようにしていたが、Lesson8 で自分を語るゴールにつながらず、自分ごとにならなかったので、最後は「自分の幸せとは何？」というテーマで４コマ漫画を作成させるが、途中、「“What is my happiness ?”というテーマでディベートを行いながら、自分の考えを ALT、友達、先生に伝える」に変更した。 (3)相手にわかりやすく伝わるように、事実や考えを伝え合おうとする （主体的に学習に取り組む態度）		
生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	文法は理解しているが、それを使って自由に自己表現することができるま	Q&A、基本文の内容を使って自分の意見や理由を述べる生徒も増えてきた	個人やグループでのプレゼンテーションを楽しく、積極的に、前向きに取り組む

	でにはまだ至っていない生徒も多い。単語を羅列したり、文の構造を理解しないまま表現しようとする生徒もいる。	が、質問に対して具体的に答えたり、聞き返したりすることが課題である。	生徒が多い。 しかしながら、まだ自分の考えや話すことに自信がもてない生徒も多い。

単元（題材）設定の理由	(1) 生徒観 本学級は明るく優しい生徒が多い。英語の授業においては素直に自分の気持ちを表現したり、友達の発表を聞いてそれを受け止め理解しようとすることができる。基本文トレーニングでも、互いに助け合い、教え合う姿勢が定着している。 １学期に行った KICP では「自分がこれまでに影響を受けた人やものごと」について ALT に伝え、ALT は「日本に来たいと思うきっかけや日本が好きになったきっかけ」について語り、子どもたちはそれを聞き、質問をしながらやり取りをした。 全員の生徒が KICP が有意義であったと回答しており、「自分の言いたいことが伝わって嬉しい」「もう一度できるならもっと話してみたい」「ALT の国に行きたい」など前向きにとらえることができた。今後の課題は、質問力と即興性を身につけテンポよくやり取りができるようになることである。 すでに Lesson8 で「自分の将来」を語ることも伝えていることから、本単元はそれにつながる内容にしたい。 一方で英語が苦手である生徒もいることも事実であり、帯活動を徹底し、トレーニングをするところから少しずつ自信をつけていくことを期待したい。 今後、入学試験対策も単元の活動に盛り込みながらも彼らのもつ素直さと優しさを伸ばしていきながら将来彼らが憧れる英語力を身につけさせるような授業を目指したい。 (2) 教材観 本単元は日本の文化の１つである「漫画」について取り上げ、日本の漫画が海外ではどんなふうにその国の言葉で表現されているのかを日本の文化と共に紹介されている。単元最後の Goal Activity では４コマ漫画を英語に翻訳する内容となっている。題材に関しては最終単元 Lesson8「For our Future」につなげるため、これまで学習内容を自分ごとに置き替え、「今の自分は誰に影響を受け、これからどうして生きていきたいか」(Lesson3)や「将来自分はどんな環境で生きていきたいか（都会？田舎？それとも？）」(Lesso4)などのテーマでプレゼンテーションやディスカッションを重ねてきた。 本単元ではさらに自分ごとにするため、単元最後の What is good manga for people abroad?の small talk の部分を What is my happiness ?に置き替えた。 関係代名詞の主格表現を基本文や Q&A に入れてトレーニングするとともに、モノや人の説明をする時には関係代名詞が便利だということを言語活動の中で気づかせ、使えるようにすることを目指す。 まずは Sence2 の本文の中に出てくる漫画や弁当の話から「自分が幸せだなぁと感

じる時はどんな時？」と考えるところからスタートする。そこからマンダラチャートやマッピングを使いながら自分の考えを整理し、友達やＡＬＴに伝える。TT ではワン先生の「幸せな時」を共有し、ワン先生の幸せを知る。「幸せ」というキーワードをもとに「自分たちの幸せって何だろう？」のテーマでディスカッションを数回行う。第４時では「３年６組のみんなが考える幸せ」のアンケートをもとに友達の考える幸せを共有した。アンケートでは自分の幸せが「自分だけが感じる幸せ」と「だれかと共有する幸せ」の２つに分かれた。そこで自分の幸せと友達の幸せの違いに気づき、さらに自分の考えを深めていった。研究発表では、第５時から第７時（本時）までにディスカッションなどで深めた「自分の幸せ」を全体で共有する。そして友達の話を聞きながら「今考える自分の幸せ」を自己調整しながら整理していく。「お金」「家族」「友達」「仕事」など自分が考えた幸せのキーワードが出てくると思われるが、「自分の幸せって他の人はどう思うのかな？」「幸せに条件ってある？」「自分の幸せはずっと続くものかな？」「楽しくないことをしているのは本当に幸せじゃないの？」「自分にとって生きていく中で何が大切なんだろう」という疑問も生まれるかもしれない。「自分の大切な人にも同じように幸せになってほしいな」という思いを持ったり、友達の幸せを聞いて「そんな考えもあるんだ」と気づき、それが他者への理解につながることや最後に自分を語る時のエッセンスとなることを期待したい。

⑶　指導観

これまで、教科書本文理解、文法理解中心の活動を通した授業を行っていたが、いくら本文の内容や文法を理解していても子どもたちがそれを使って英語でやり取りをしたり、自分の意見が言えたり、ALT と即興で会話をしたり、音読がすらすらできたりという技能がついていないことが大きな課題であることに気づき授業スタイルを一変した。これまでの文法ありきの授業を以下のように変えた。

① 単元の文法は帯活動の基本文トレーニングを徹底することで身につける。
同時に Q&A トレーニングで質問力を鍛える。帯

＜基本文トレーニング＞
ペアで基本文シートを手に、日→英のトレーニングを行う。（英語は見ない指導）
＜Q&A トレーニング＞
ペアで Q&A シートを手に質問し合い、答える側は答えに＋I 文足して答える。
（答える側は Q&A シートを見ない指導）
それを聞いた質問側はさらに会話をつけ足していく。

【言語使用を意識した出力・即興力、質問力の育成】

② デジタル教科書を効果的に使用し、音読トレーニング、シャドーイングを積極的にさせる。授業スタート前（本校が指導する３分前着席時）から自分で音読練習をする。
（授業前、自宅練習後、単元終了後に音読テストを行う）帯

【表現力の育成と英文の定着】

③ ペアチャットを充実させるため、基本文中の名詞を取り上げ相手に質問しながらチャット活動を行う。帯

Ex) A: It is impressive to see beautiful nature. （基本文）
B: Where do you go to enjoy nature ?
【即興のやり取りで質問力・応答力・発話力の育成】

④ 単元スタート時にその単元で行うパフォーマンステストやライティング課題のルーブリックを配布し、子どもたちが向かうゴールを初めに提示する。
プレゼンテーションや発表を行う場合は必ず中間指導を入れる。
（　中間指導のふりかえり→本番への作戦タイム→本番）
【表現力の育成と英文の定着、パフォーマンス力の向上】

⑤ 思考ツール（マンダラート、マッピング）の積極的活用
自分が言いたいことを整理するために使用。
→　言語活動の活発化を目指す　【発話力の育成】

⑥ ふりかえりシートの活用
その時間にできるようになったこと等の学びをふりかえり、毎時のゴールを明確にすることで見通しをもって取り組めるようにしている。

（指導の工夫と子どもの変化）
授業を変えたことにより、Lesson8 の単元ゴールである「For our future」が子どもたちにとってより明確に、自分ごととしてとらえれるようになり現在も最終ゴールにむかって授業展開を行っている。教科書の内容を子どもたちの現状や今おかれている状況と照らし合わせ、自分ごととなるように置き替えている。基本文・Q&A シートは教科書の基本文をベースに作成している。（文法事項はすべて基本文に取り入れている。）文法については授業の中の言語活動の中で取り入れ、使い方のルールを確認したり、単元の最後に整理をしている。（入試対策も含む）
これまで文法中心の授業を行っていただけに、この授業の一変は子どもたちの不安につながったことも事実ではあるが、基本文トレーニングを積極的に行い、それを使った言語活動をした結果、自信をもって英語が話せる子どもが増えた。子どもたちの振り返りでは「長文読解が前よりできるようになった」「苦手だったけど英語が楽しくなった」という記述や発言が見られた。友達とペアで行うことが子ども同士の教え合いにもつながり、これまで英語が苦手だった子どもも帯活動トレーニングを積極的に行うようになり、笑顔が見られるようになった。テストではパフォーマンス活動に関連した問題を出題し、ライティング問題では多くの生徒が１５点満点中８～１０点以上をとる結果につながった。また、長文読解がわかるようになったという生徒も多い。
１学期に行った KICP では子どもたちが、「自分が影響をうけた人やものごと」についてＡＬＴに語る場面があったが、どの子どもも表情がいきいきしていたのが印象的であった。言語活動が「自分」にかかわった時、子どもたちのやりがいが頂点に達するのだと実感した。

単元（題材）の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	＜知識＞ ペア活動やディスカッション、まとめのライティングで使用する英語の語句や表現を理解している。 ＜技能＞ 既習事項を使い、自分の考えを思考ツールを使ってディスカッションで発言したり、自分の考えを英文で書く技能を身につけている。	思考ツールを使って「自分にとって何が幸せなのか」ということを理由や自分の考えを整理しながらグループやディスカッションで周囲に伝えることができる。	単元のゴールをきちんと理解し、「自分にとって何が幸せなのか」について積極的に考える。 周囲の考えをもとに、より良い内容にしようとしている。

２．単元に指導と評価の計画（全　11 時間）

時間	学習内容		【評価の観点】 評価規準	学習課題（■）と主な学習（言語）活動（○） 単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面
	活動	内容		
第11時	単元テスト前学習	L5 単元テスト ふりかえり	【　書くこと　】 既習文法を理解することができている。 既習の文法を用いて文を組み立てることができる。 【　話すこと　】 既習の表現を使って自分の幸せについて話すことができる。	■　これまでの学習した知識を確認するために文法テストおよび自分の幸せについて発表パフォーマンステストを行う。（ipad に録画する）
第10時	音読テスト前練習	音読テスト	【　話すこと　】 P57 か P59 のどちらかを選び、４０秒で音読することができる。 （ルーブリック配布済）	■　教科書の言語材料の定着をはかるために音読テストをする。

第9時	基本文・Q&A トレーニング	L5 文法の整理	【　書くこと　】 基本文トレーニングやディスカッションの表現で使った後置修飾の使い方を整理する。	■教科書やワークシートなどを使い、表現の使い方の理解を深める。
第8時	基本文・Q&A トレーニング	ALT からの投げかけやこれまでのディスカッションを通して自分の考えを最終的にまとめ、グループで発表する。 「自分にとって幸せ何か」についてディスカッションを通して考えたことを英文で書く。	【話すこと】 ALT からの投げかけについて自分の考えを英語で話すことができたり、友達の考えに質問したりすることができる。 【書くこと】 「自分の幸せ」について英文で書くことができる。 （事前にルーブリックを配布済）	■ これまでのディスカッションを通して考えた自分の幸せについて既習の表現を活用して英文で書く。 ■ グループ内の話し合いを受け、最終的な自分の考えをまとめ、英文で書く。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第7時 研究発表	基本文・Q&A トレーニング	「何が自分の幸せなのか」ということについてクラス全体でディスカッションを行う。 進行は教師が行う。	【話すこと】 前時までの課題をいかし、自分の考えを整理し、マッピングをもとに既習の表現を用いて伝えることができる。 友達が話しやすいような質問をすることができる。	■クラスで自分の幸せについて伝えあうことで、個人の幸せについての考えがさらに深まる機会にする。 ① ペアで今考える自分の幸せについて伝えあう。 ② 第４時で全体で共有した６組の「自分の幸せ」についてのアンケートを提示し、第４時で考えていた自分の幸せと今考える自分の幸せを再度比較し、自分の考えを整理する。 ③ 全体で出た友達の意見を聞いて、自分の考えを共有する。 ④ これまでのディスカッションを通して自己調整する。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び

第6時	基本文・Q&A トレーニング	友達の考えを聞き、さらに付け加えたいこと、話したいこと、質問内容も再考する	【話すこと】 自分の考えを再考し、整理をすることができる。	■ 基本文に立ち返り、関係代名詞の効果的な活用の仕方と文法の知識が役に立つことを実感させる。 ① Ｑ＆Ａや基本文をもう一度見ながら文法ルールを確認する。 ② OTE がペアチャットの方法についてモデルを示す。 ③ もう一度ペアで自分の幸せについてチャットし、そのキーワードをもとに互いに質問をすることで相手の話す内容を深堀りすることを目指す。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第5時 ＴＴ	基本文・Q&A トレーニング	「自分にとって幸せは何か」についてグループでディスカッションを行う。	【話すこと】 マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。 友達の考えに対して質問することができる。 ワン先生の質問にも答えることができる。	■ グループディスカッションで友達とやり取りしながら、他者考えに触れ、自らの幸せについての考えを深める。 ① グループごとにＯＴＥとディスカッションを行う。 ② その後ワン先生のところに行ってディスカッションを行う。 ③ ディスカッション後に友達の考えや気づきをメモしたり、３色ペンを使って自分のマッピングに追記する。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第4時	基本文・Q&A トレーニング	前時のアンケート結果を見る。 友達の「幸せ」も知り、再度「自分にとって幸せは何か」について思考ツールを使って考えをまとめ	【話すこと】 マッピングや友達の考えのメモをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。	■ アンケートの結果を見ながら「自分の幸せ」が「個人だけの幸せ」か「他者を巻き込んでの幸せ」かを分類することを通して自分の幸せに対する考えを問い直す。 ① アンケートの結果をもとに友達の意見と比較しながらミニディスカッションを通して考えを深めていく。 ② 自分の考えをマッピングやメモを用いたりしながらペアで共有する。

<table>
<tr><td></td><td></td><td>る。

ペアで自分の考えを共有し、友達の考えに対して質問を考える。</td><td></td><td>③ 友達の考えに対する質問や自分の考えを必ず伝える。
④ 友達の意見や考えを記録する。
（日本語でよい）

■ 中間指導で子どもたちのつぶやきをひろって再度自分の幸せについて考える機会を与える。

<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>第3時</td><td>基本文・Q&A トレーニング</td><td>前時のワン先生や友達の発表などを思い出し、「今度は自分にとって幸せとは何だろう？」についてマンダラート、マッピングを用いて考えを整理する。
自分の考えをペアで共有する。

授業最後に「自分の幸せ」についてのアンケートを入力する。</td><td>【話すこと】
マンダラート、マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。</td><td>■トピックに対する自分の考えを整理して理由をつけて伝える。
① マンダラートで自分の考えを出していく。
② マッピングで自分の考えをさらに深めていく。
③ グループや全体で自分の考えを発表する。マッピングを見ながら自分の考えを発表する。
④ アンケートを入力する
<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>第2時

TT</td><td>基本文・Q&A トレーニング</td><td>TT
日本の漫画はワン先生にとってどのようなものであるかを知る。（自己紹介で日本の漫画が大好きだと言っていたことをうけて）

ワン先生の話を聞き、「自分たちの幸せな時間」につ</td><td>【聞くこと】
ワン先生にとって日本の漫画がどのようなものであるのかを聞き取ることができる。
友達の幸せな時間についての内容を聞き取ることができる。

【話すこと】
「自分の幸せな時</td><td>■ワン先生の「幸せな時間」について聞いて、自分の「幸せな時間」についての意見を持つ。
① Small Talk
② ワン先生からの問いかけを聞く
Do you like manga?
I feel happy when I read manga.
How about you?
Some of you may say “I feel happy when I read manga” but others may say “No”.
So when do you feel happy in your dairy life?
Today I want to know your answer.
Let’s think and talk about it with your</td></tr>
</table>

		いて考え、友達やワン先生に伝える。	間」について友達やワン先生に伝えることができる。	friends. Later tell me your answer. ③ まずは個人で考える ④ グループで共有する （必ず友達の話に対して質問するように指示する） ⑤ 挙手をして自分の幸せな時間について発表する。（発表した生徒はワン先生からの質問に答える。） 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第1時	基本文・Q&A トレーニング	Lesson5 Scene2 (P.57 P.59) 本文音読練習・内容理解 “bento”をワン先生にどうやって説明するかを考え、全体で発表する。 Bento の説明を英語で書く。	【聞くこと】 本文の内容を聞き、日本のオノマトペがどのように海外で伝えられているか、海外では日本の文化を漫画でどのように伝えているのか聞き取ることができる。 【読むこと】 本文を読み、日本のオノマトペや日本語の表現が海外ではどのように伝えられているか、海外では日本の文化を漫画でどのように伝えているのかの概要をとらえることができる。 【話すこと】 本文を 40 秒で音読することができる。	① 日本文化である“bento”をワン先生がわかるように説明する ② 教科書 P.57 P.59 を読み概要を理解する。 ③ 新出単語の意味を確認し、音読練習を行う。 ④ 教師からの本文に関する質問に英語で答える。 ⑤ デジタル教科書を使ってシャドーイングをしたり、自己練習をしながら各ページ 40 秒で読めることを目指す。 ⑥ P59 で出てくる “bento”を自分ならどのように説明するのかを個人で考え発表する。 ⑦ モノや人の説明をするときは関係代名詞 which, who, that を使うことが役に立つことに気づかせる。 ⑧ 表現するための例文を提示する。 ⑨ 英語で “bento”の説明を書く。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び

３．本時の展開について

３－１．本時の展開（第 11 時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前 個人 授業開始	タイマーを提示する 開始３分前から単元テスト勉強を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
ま と め	個人	本時のゴールを伝える。		To try Lesson5 unit test
	単元テスト開始 （２０分間） 個人 「自分の幸せ」について発表パフォーマンステスト		録画を OTE と見る。	◆単元テスト ＜知識・技能・思考・判断＞ ◆パフォーマンステスト ＜知識・技能・思考・判断・主体的に取組む態度＞ ◇これまでの授業をふりかえっての感想を聞く。（日本語でよい） 教師の感想も伝え、次の単元につなげる。 できるだけ褒める言葉を投げかける。
	Feedback 個人 ワークシート・ふりかえりシート回収	ふりかえりシートに記入させる。		◆ふりかえりシート・ワークシート ＜主体的に学習に取組む態度＞

３－１．本時の展開（第 10 時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	タイマーを提示する		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	個人	音読練習を促す。		
	授業開始	本時のゴールを伝える。		To try reading test
	個人			
	音読練習 （３分間）			◇デジタル教科書などで最終音読練習をさせる。
ま	テスト開始			◇P57 P59 どちらかを自分で選ばせ音読テストを行う。
と	個人			教師はタイマーを４０秒に設定。 （事前にルーブリック配布済）
め				◆音読テスト ＜知識　技能＞
				◇テストが終了したら単元テストの勉強をするよう促す。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる。		

３－１．本時の展開（第９時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
		OTE（日本人教師）	ALT	
	授業前	タイマーを提示する		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	個人	音読練習を促す。		
ま	授業開始	本時のゴールを伝える。		To understand the grammar of this unit.
と				
め	文法の整理			◇関係代名詞（主格）の役割を確認する。もう一度、基本文トレーニングで使用している関係代名詞を見ながらその使い方やルールを確認する。
	入試問題にチャレンジ			◇関係代名詞が使われている入試問題を紹介し、関連問題を解かせ、どのような場面で関係代名詞が使われているのかを気づかせる。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる。		

３－２．本時の展開（第８時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
		OTE（日本人教師）	ALT	
	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。 本時のゴールを伝える。		◇テンポよくインタラクションができているペアを褒める。 To be able to write about your happiness in English.
展 開	これまでのディスカッションや ALT からの投げかけを通して自分の考えを整理し、グループで自分の考えを発表する。 「何が自分の幸せなのか」を英文で書く 個人 英作文回収 Feedback 個人	生徒の観察をする。机間指導。 ふりかえりシートに記入させる。	生徒の書いた英作文に目を通し、ルーブリックに沿って評価する。 細かい評価基準は OTE と相談しながら行う。	◇積極的にできている生徒を褒める。 ◆英作文 （生徒にはルーブリックを配布済） ＜知識・思考・判断・表現＞ ◇時間内に書くように指示する。 見ていいのは基本文・Q＆A プリント、自分のワークシートのみとし、Ipad は使用させない。 ◇添削後もう一度清書してからそれを音読指導する予定。

３－２．本時の展開（第７時）　　本時　研究授業

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。 本時のゴールを伝える。		◇テンポよくインタラクションができているペアを褒める。 To be able to tell your friends and the teacher about your happiness in discussion. ◇発表することが苦手な生徒の観察をし、サポートしながら発表ができるように促す。
展 開	ペアで「自分の幸せ」について伝えあう。 第４時で全体で共有した６組の「自分の幸せ」についてのアンケートをもう一度見て第４時に考えていた自分の幸せと今考える自分の幸せを再度比較し、自分の考えを整理する 全体で自分の考えを発表する。 随時発表者に質問を行いながら自己調整を行う。	生徒の観察をする。机間指導。 生徒の意見に積極的にリアクションをしながら前向きなコメントをする。机間指導。 生徒の意見を吸いあげてどんどん意見をださせていくよう進める。 出た考えは板書していく。（日本語で）	子どもたちの様子や出た考えを OTE と共有し、次の時間への流れを確認する。	◇うまくやりとりできていたり、この後のディスカッションに繋がりそうなことを言っていたペアを取り上げ、他の子どもたちがやりとりの参考にできるよう紹介する。 ◇友達の考えや気づきをメモし、自分の考えを再考できるようにする。 ◇子どもたちからでてきた「私にとって幸せとは何？」に関するワードを板書でマッピングしていきながら教師と生徒のやりとりを展開し、出てきた考えを見ることによって子どもたちが考えを整理できるようにする。 ◇生徒の反応を受け入れ認めるようなリアクションをし、さらに言語活動が活発に行えるよう意欲を高めさせる。 ◆記録に残す評価は行わない。 ただし、活動の状況を観察し、指導にいかす記録は残す。活動だけにとどまらないよう留意する。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる。		◇本時の頑張りを褒め、授業を終了する。

３－３．本時の展開（第６時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。		◇テンポよくインタラクションができているペアを褒める。
		本時のゴールを伝える。		To review how to use relative pronoun To try to keep conversation in pair.
展	Q&A や基本文をもう一度見ながら文法ルールを確認する。			◇説明はできるだけ短く、シンプルに行い理解しやすいように確認していく。
開	ペアチャットの効果的な方法について確認する。			◇会話の中で話す内容の名詞を取り上げ、その名詞に関連質問をしながら会話を広げていけるよう教師がモデルを示す。
	「自分幸せ」についてペアチャットを行う。			◇うまく名詞を拾えていないペアはモデルを示しながら支援する。 ◇上手に自分の意見を言えていたり、質問できていた生徒を褒める。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる。		

３－４．本時の展開（第５時）　TT

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
展開	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。	OTE と共に開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。	◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。 生徒観察。 机間指導。 生徒の観察をする。机間指導。	生徒観察。 机間指導。 生徒の観察をする。机間指導。	
	「自分にとって幸せは何か」について OTE や ALT とも一緒にグループディスカッションを行う。 ２回のディスカッションの合間には自分の考えをグループで再考しながら準備する。	グループごとに呼んで、一緒にディスカッションを行う。中間指導を入れ、終了したら ALT のところに随時行かせる。	本時のゴールを伝える。 OTE の中間指導後にもう一度一緒にディスカッションを行う。 適宜、アドバイスを行う。 グループ全員に質問をなげかける。	To tell your opinion about your happiness to your friends， OTE and ALT in group. ◇OTE は友達が話すことに反応しながら質問ができるように支援する。うまくできているところは褒める。 良かった点、改善点をコメントする。 ◇ALT は OTE とやり取りを行ったグループともう一度ディスカッションを行い、さらに考えが深まるようなやり取りができるよう支援する。 その際にグループ全員に質問をしながら皆で考える場面を与え、さらに思考させるよう促す。 ◇友達の考えや気づきをもって自分の考えを再考させるため３色ペンで自分のマッピングに追記させる。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる		

３－５．本時の展開（第４時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。		
展		本時のゴールを伝える。		To know t about your friend's happiness and rethink about it.
開	前時のアンケート（自分にとって何が幸せか）の結果を見る。 「友達の幸せ」を知り、再度、自分の幸せは何かを考える。 ペアで自分の考えを共有し、友達への質問を考える。	アンケート結果について、それは「個人の幸せ」か「他者を巻き込んでの幸せ」かを全体に問いかけ思考させる。	OTE より子どもたちの発言や様子を聞き、次の時間の準備をする。	◇友達の幸せと自分の幸せを照らし合わせて思考させる。 ◇素直な気持ちを引き出し思考させたいので、出てきた子どもたちの考えを否定せず、思いを受け止めるような問いかけや、認めるような対話をするよう心がける。 ◇上手に言えた生徒は具体的にどんなことをどのように伝えていたかをコメントする。 ◇再度自分の幸せについて考えさせるため、中間指導で子どもたちのつぶやきをひろうようにする。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる		

３－６．本時の展開（第３時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。		
展		本時のゴールを伝える。		To think about my happiness .
開	前時のワン先生や友達の発表を思い出し、「自分の幸せは何だろう」について考える。	「自分にとって幸せとは何か」をマンダラート、マッピングを用いて整理させる。 机間指導。		◇ある程度時間をとって取組ませたいので時間は計らない。 ◇教師の例を見せる。 ◇上手くマッピングできない生徒がいれば時間を止めて丁寧に全体指導する。
	ペアで自分の考えを共有する。		アンケートの結果や授業で生徒から出た考えを OTE から聞き、状況を把握するとともに自分の幸せについての考えをまとめておく。	◇ディスコースマーカーを上手く活用できるようアドバイスする。 ◇原稿を書いたり、翻訳機能などで文を作ることは避け、基本文を必ず使った表現で話すよう伝える。
	アンケートに入力する。 「自分の幸せな何？」	Forms に入力させる。		◇友達の話したことをマッピングで記録させる。相手の話した内容のキーワードがどこなのかを考え、次回に質問を考えるよう指導する。
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる。		◇帰るまでに入力を完了させるよう伝える。

３－６．本時の展開（第２時）　**TT**

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
		OTE（日本人教師）	ALT	
導	授業前 授業開始 帯活動 Q&A 練習 基本文トレーニング（ペア） Teacher's talk	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。 各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。 本時のゴールを伝える。	前時に生徒が書いた“bento”の説明の感想を伝える。 OTE と会話をしながら、生徒に問いかける。	◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。 To listen to ALT's story and think about times when you feel happy.
入	自分の幸せな時間について考える。 個人 ペアで共有する。相手にも質問する。 全体で共有する。ワン先生の質問に答える。 Feedback 個人	生徒観察。 机間指導。 子どもの話す内容を聞き、コメントやリアクションをしながら状態を把握する。 ふりかえりシートに記入させる	生徒観察。 机間指導。 生徒の話す内容を聞き、コメントやリアクションをしながら状態を把握する。 生徒の発表に質問する。	◇発表することが苦手な生徒の観察をし、サポートしながら発表ができるように促す。 ◇発表者以外は reaction をしたり、質問を積極的に行うよう促す。積極的にできている生徒を褒める。

３－６．本時の展開（第１時）

段階	学習内容 （学習形態）	教師の役割 OTE（日本人教師）	教師の役割 ALT	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	授業前	タイマーを提示する。 開始３分前から音読練習を促す。 準備ができていない生徒には声をかける。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	授業開始 帯活動 Q＆A 練習 基本文トレーニング（ペア）	各練習２分間でタイマーを設定する 生徒の観察をする。		
		本時のゴールを伝える。	本文の内容を把握する。	To understand the story of Scene2 (P.57　P59) and practice reading.
		教科書 P57 P59 の進出単語の練習をさせ、内容にふれていく。	子どもの音読の様子を OTE から聞きながら、 OTE と共に音読のルーブリックで改善する点はないかを話し合う。	◇内容については生徒とインタラクションしながら理解させるよう努める。 ◇デジタル教科書を使って個人音読練習をさせるが、その前にシャドーイングなども入れて全体で練習させる。
	音読トレーニング（個人）	音読の練習をさせる。		◇各ページを 40 秒で読めるように促し、練習させる。
	P.59 に出てくる“bento”を自分ならワン先生にどう説明するかを考える。 個人			
	全体で発表する。 Bento の説明を英語で書く		生徒の書いた弁当の説明を読み、感想を考えておく。 （まとめてイングリッシュボードに掲示するなど）	◇モノや人を説明するときは関係代名詞という、that, which(モノ),who（人）を使うと便利だということに気づかせるため例を示し、空欄に自分なら何を入れるかを考えさせ、書かせる。 Bento is (　　　　) which (　　　　　　).
	Feedback 個人	ふりかえりシートに記入させる		

Key Sentences(Lesson5)		Class(　　)No.(　　)Name(　　)
	English	Japanese
1	I think happiness is having people **who** support me.	幸せは自分を助けてくれる人を持つことだと思う。
2	The time I spend with friends **who** understand me is my happiness.	自分を理解してくれる友達との時間は私の幸せだ。
3	I like people **who** make me smile.	私を笑顔にしてくれる人が好きだ。
4	A person **who** helps others can be happy.	周囲に手を差し伸べる人は幸せになれる。
5	I want to enjoy something **that** helps me relax.	自分をリラックスさせてくれることを楽しみたい。
6	I want to be a person **who** never gives up.	絶対にあきらめない人になりたい。
7	Happiness is having a dream **that** gives me hope.	幸せは希望を与えてくれる夢をもつことだ。
8	I thank the people **who** care about me.	私のことを気にかけてくれる人に感謝する。
9	I want a job **that** helps other people.	人のために働く仕事につきたい。
10	I enjoy reading books **that** teach me important things.	大切なことを教えてくれる本を読むのを楽しんでいる。
11	I respect people **who** work hard for their goals.	自分の目標にむかって一生懸命頑張る人を尊敬する。
12	I like places **that** make me feel peaceful.	心がやすらぐ場所が好き。
13	People who have good relationships are happy.	良い関係を築いている人は幸せだ。
14	I want to be a person **who** makes others happy.	だれかを幸せにする人になりたい。
15	Happiness is finding something **that** I really love.	幸せは自分が本当に好きなものを見つけることだ。
16	My favorite music gives me energy.	お気に入りの音楽が自分にエネルギーをくれる。

＊下線部のところを変えて言うことができます。

〇達成の記録

友達とやり取りをして、答えられた回数を書こう。

１回目		２回目		３回目		４回目		５回目	
６回目		７回目		８回目		９回目		１０回目	
１１回目		１２回目		１３回目		１４回目		１５回目	

合計	個

Q&A　practice⑥		Class(　)No.(　)Name(　)
	Question	Answer
1	What is happiness for you? （あなたにとって幸せとは何ですか？）	Spending time with my family makes me happy. （家族と一緒に時間を過ごすことは私を幸せにします。）
2	Are people **who** have many friends happier? （たくさんの友達がいる人はより幸せですか？）	Yes, they are. / No, they aren't. （はい、そうです。/いいえ、違います。）
3	Who is a person **who** makes you happy? （あなたを幸せにする人は誰ですか？）	My best friend makes me happy. （親友は私を幸せにします。）
4	Do you know someone **who** always helps others? （いつも周囲を助ける誰かを知っていますか？）	Yes, I do. He(She) is ___. / No, I don't. （はい、知っています。彼は___です。/いいえ、知りません。）
5	What is something **that** gives you energy? （あなたにエネルギーをくれるものは何ですか？）	My favorite music gives me energy. （お気に入りの音楽が私にエネルギーをくれます。）
6	What is a place **that** makes you relaxed? （あなたをリラックスさせる場所は何ですか？）	The park near my house makes me feel relaxed. （自宅近くの公園は私をリラックスさせます。）
7	What is your future goal? （あなたの将来の目標は何ですか？）	To ____. / To be a _____. （_____することです。/_____になることです。）
8	What kind of people do you respect? （あなたが尊敬する人はどんな人ですか？）	I respect people **who** are honest. （私は正直な人を尊敬します。）
9	Who helps you when you are in trouble? （トラブルに巻き込まれたとき、だれがあなたを助けますか？）	My friends do(es). （友達です。）
10	Do people **who** help others become happier? （誰かを幸せにする人はより幸せになりますか？）	Yes, they do. / No, they don't. （はい、なります。/いいえ、なりません。）
11	What kind of job can make people happy? （人々を幸せにすることができる仕事は何ですか？）	A job **that** helps others. （誰かを助ける仕事です。）
12	What is something **that** you thank for? （あなたが感謝しているものは何ですか？）	I thank the people **who** support me. （私は自分を助けてくれる人に感謝している。）
13	Do you have a dream that makes you excited? （あなたはわくわくする夢を持っていますか？）	Yes, I do. / No, I don't. （はい、持っています。/いいえ、持っていません。）
14	Is money something **that** brings happiness? （お金は幸せももたらすものですか？）	Yes, it is. / No, it isn't. （はい、そうです。/いいえ、違います。）
15	Can people be happy without having their goals? （人々は目標を持たずに幸せになることができますか？）	Yes, they can. / No, they can't. （はい、できます。/いいえ、できません。）

〇達成の記録

友達とやり取りをして、それぞれのポイントを記入しよう。

	答えた回数	＋1 文	聞き返し		答えた回数	＋1 文	聞き返し
1 回目				2 回目			
3 回目				4 回目			
5 回目				6 回目			
7 回目				8 回目			
9 回目				10 回目			
						合計	個